

日本鉄鋼協会記事

理事 会

第6回理事会 開催日：9月13日。出席者：佐野会長
他：34名。

会議事項

1. 共同研究会熱経済技術部会長の解嘱、委嘱の件。
藤本一郎君（川崎製鉄社長）解嘱し、桑畑一彦君（川崎製鉄参与）委嘱することに決定。
2. 第72回講演大会に関する件
10月16～18日・尼崎の鉄鋼短期大学において開催。
開会式司会 武田副会長
特別講演会司会 武田副会長
金属学会との連絡会出席者（10月17日、30名）橋口副会長、伊木企画、今井研究、荒木編集各委員長、田畑専務理事、草川講演大会分科会主査、大中、菅野各理事。
3. 鉄鋼2次製品生産設備調査委員会設置の件
武田副会長を委員長に設置
4. 表彰奨励候補選考小委員会委員委嘱の件

企画委員会

第5回委員会 開催日：9月9日。出席者：伊木委員長他17名。

会議事項

1. 国際技術交流に関する件
10月7日より11月18日までドイツより4名、10月9日より24日までオランダより4名、11月にスエーデンより10名位のデレゲーションが来日の予定。各社にも連絡をとり、準備体制に入っている。
2. 鉄鋼2次製品生産設備調査委員会設置の件
武田副会長を委員長に設置した旨報告。

研究委員会

第7回委員会 開催日：9月12日。出席者：今井委員長他21名。

会議事項

前回に引続き研究委員会のあり方を討議し当委員会の業務範囲を定めた。またその活動をスムーズにするため鉄鋼基礎共同研究会などの担当委員をつくることになった。

編集委員会

第1回運営委員会 開催日：9月21日。出席者：荒木委員長他17名。

会議事項

1. 和文会誌分科会（第6回）報告
2. 欧文会誌分科会（第4回）報告
3. 鉄と鋼第11号臨時増刊号について
第2種講演概要（オフセット印刷）を増刊号として今回は Volume の中に入れ全会員に配付することになったが、今後どうすべきか検討する。

4. 和文会誌のあり方について

会誌のあり方について意見の交換を行なった。協会の性格に密接な関連があり、それによつて内容も変わるので、今後さらに意見の交換をすることになった。

第6回和文会誌分科会 開催日：8月25日。出席者：荒木主査他7名。

会議事項

1. 論文審査の規準について
論文審査規準は現状のままよりか、他学会の様子を調べ検討
2. 標準化委員会パネ鋼原案作成分科会原稿について—JIS「パネ鋼」の改訂について—
鉄と鋼に掲載してほしいとの依頼が標準化委員会よりあり検討した結果標準化委員会の活動のPRにもなるし、ニュースとか談話室記事として掲載してはどうかなどの意見が出たが、記事の取り扱いについては運営委員会に計ることになった。
3. 臨時増刊号について
鉄と鋼第52年11号（第2種講演概要集）のページは通しページとせず増刊号だけでページを追う。

第4回欧文会誌分科会 開催日：8月26日。出席者：橋口主査他16名。

会議事項

1. Trans., I.S.I.J. Vol. 6, No. 2, No. 3の講評
(1) 講演大会“Grand Lecture Meeting”は例えば“The 72nd I.S.I.J. Meeting, October 1966”に改題。
(2) 国内文献記事は学会、研究所、会社刊行物の区別をなくす。
(3) News 記事に出所を記載。
2. 原稿の英文校閲を下記の順路とする案。

| | | | | | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 原稿 | 英語表現 | → | 英米人 | → | 著者 |
| | | → | 校閲者 | | |
| | Aクラス | → | 日本人 | → | 英米人 |
| | | → | 校閲者 | | |
| 英語表現 | → | 日本人 | → | 校閲者 | |
| | → | 校閲者 | | | |
| Bクラス | → | 日本人 | → | 校閲者 | |
| | → | 校閲者 | | | |
3. 和文原稿は英文原稿の表現が不明確で和文原稿を必要とする場合にのみ書くよう要求する。
4. 依頼論文五件、編集委員より推薦され依頼決定。
Prof. Dr. Honeycombe, Prof. Dr. Chipman の特別講演も掲載許可を著者達に求めた後、掲載する。

第5回欧文会誌分科会 開催日：9月19日。出席者：橋口主査他14名。

会議事項

1. 和文原稿は特別の場合を除き不必要という意見が強いが、寄稿規定を変更する時まで従来通りに未置くことに決定。
2. 英文校閲者を冶金関係の英米人に求める件は、これまで発行されてきた Trans., I.S.I.J. の英文表現の Level を検討しなおした後、再考する。

3. 原稿の長さ規定案.

研究論文 図表含めて刷りあがり10頁以内 (10,000語以内)

技術資料 図表含めて刷りあがり 5~15頁 (5000~15,000語以内)

4. 各審査員より論文講評

5. 文献略記表現の検討は次回分科会に.

6. 前回分科会で本文中の図の文字が小さすぎるとい
う意見があつたが、文字の大きさは事務局で検討し
なおすことに決定.**第1回講演大会分科会** 開催日: 9月22日. 出席者:

草川主査他17名.

会議事項

1. 第72回講演大会について

座長ならびに講演者への依頼事項を確認.

2. 本分科会の業務も多種にわたるため、個々の問題
は、分科会をさらに細分化し小委員会において検
討する方針をとることになった.3. 講演大会および討論会に関する準備手順の年間ス
ケジュールを検討.**第1回出版分科会** 開催日: 9月21日. 出席者: 佐藤

主査他7名.

会議事項

出版の目的、出版の企画、刊行要領、編集などにつ
いて検討の結果、これらを一括して表わす規程を作るこ
とになった.

次回に事務局から具体的案を提出する.

資料委員会**第33回委員会** 開催日: 9月7日. 出席者: 草川委員

長他15名.

会議事項

1. 4分の3半期の予算の使用法としては、鉄鋼関係
のハンドブック、テーブル類を中心として集収する
ことになった.2. Trans. B.I.S.I. は、各社で購入しているが、利用
度が低いため、来年度より、本会のみで購入し協会
独自の活動としてはどうかという意見があつた.3. 12月号の“資料室だより”は、ASTM sustaining
member (本年度より)の特典を掲載することにな
つた.4. 各国より取寄せた寄稿規程は各社に後日送付す
ることになった.5. 協会の“資料室のあり方”については、
鉄鋼関係の文献センターになつてほしい
各社にプラスの面がある活動をしてほしい
“鉄と鋼”の文献はすぐに検討できるようにしてほ
しいなど、長期計画として多数意見があつたが資料
室の運営方針としては、規程を作成し人数予算の面
から再検討することになった.

席者: 高地委員長他25名.

会議事項

各執筆担当部署より提出されたアンケートにつき説明
質疑を行ない、また今後の進め方について検討し次の結
論を得た.

1) 各担当者は、アンケートに対する回答を当委員会
決定の内容様式にしたがつて作製し、次回編集委員
会に提出する.2) 今後の編集スケジュールは秋期分塊分科会との関
連などを考え次回検討する.

次いでアンケート内容についての打合せを各資料につ
き行なつた.

**コールドストリップ分科会コールドストリップ疵名称
統一委員会** 開催日: 9月9日. 出席者: 吉田正人幹
事他23名.

会議事項

1. 前回決定した各社担当分の疵見本の実物を持ちよ
り、実物による疵名称の統一を行なつた.2. 代表的な疵は写真におさめ刊行物とすることにし
た.**新技術開発部会****クレーンスケール小委員会**

第1回小委員会 開催日: 8月19日. 出席者: 岡部委
員長他26名.

会議事項

昭和41年度機械設備など試作補助金の交付を受け、製
鋼工場の造塊工程で鋼塊の単重管理を行ない、取鍋残塊
量および分塊切捨量を減少させるべき精度の高いレド
ルクレールスケールを試作研究することになった.

この研究を成功させるため、計測部会秤量分科会の協
力を得て共同研究会設備技術部会にクレーンスケール小
委員会を設置され、まず鉄鋼メーカー8社、秤量機メー
カー5社でスタートした.

議事概要

1. スケール設置会社は製鋼部会、計測部会、設備技
術部会の各部長の間で協議の結果、日本鋼管鶴見
製作所に決まつたことが承認された.2. スケール試作メーカーは秤量機メーカーを除く当
委員会で各社の仕様書を比較検討の上決定するこ
とになった.

第2回小委員会 開催日: 9月1日. 出席者: 岡部委
員長他14名.

会議事項

クレーンスケール試作担当メーカーを決定するため、
今回は秤量機メーカーを除いた.

提出資料

1. 各秤量機メーカー仕様書 5件

2. 仕様書比較表

議事概要

各秤量機メーカーから提出された仕様書の比較検討の
結果、大和製衡の案が実際の現場作業にも適し、精度も
期待できるようなので試作メーカーは大和製衡に決定し
た.

共同研究会**鋼板部会**

分塊分科会第3回編集委員会 開催日: 8月29日. 出

試験高炉委員会

第8回委員会 開催日：8月15日。出席者：辻畑委員長他15名。
会議事項

試験高炉の操業状況を視察し現地検討会を行なった。炉況はまず順調で6M³に増風後炉頂ガスの変動は若干見られるが、銑成分の変動は出ていない。なお、設備故障のため試験計画より2~3日遅れているが増風に極力つとめてもらい、予定どおりブラジル鉍石を装入して吹止める。

標準化委員会

鋼管分科会

第9回分科会 開催日：8月23日。出席者：下川主査他19名。
会議事項

JIS配管用鋼管規格の改正期を迎え当協会に原案作成分科会が発足した。これに先立ち、この原案分科会に提案するメーカー側の原案を検討した。

改正案のおもな点

1. ガス管にベベルの規定を入れる。
2. STPGに外径16", 18", 20"を追加する。また、鍛接管を入れる。
3. STPTに熱間仕上電気抵抗溶接管を入れる。
4. STPAより11種、12種を削除する。
5. STPT, STPA, STPL, SUSにチェック分析の許容変動値の規定を入れる。

機械試験方法分科会

第13回分科会 開催日：9月6日。出席者：吉沢主査他14名。
会議事項

主査よりISOスーパーフィシャルロックウェル硬さ試験方法、試験機、硬さ基準片の3規格案を審議するにいたった経過および委員選定につき説明があり、次いでこの3規格案を順次検討した。

これら3規格についての問題点や意見を協会杉幹事に提出しそれら意見書を前もって委員に送り次回11月1日に改めて検討し結論を出す。

圧力容器用鋼板原案作成分科会

第1回分科会 開催日：8月16日。出席者：金沢主査他24名。
会議事項

1. 工技院より次のような原案委託状況説明があり。低温容器用、ボイラー用は各々既存のものがあるがその中間温度域の鋼材を考え、HTを主としてできるならプロパン容器材を含めてほしい。
2. 各委員より、溶接構造用鋼との相違点、プロパン容器用鋼材の現状、圧力容器の定義、各取締法規との関連、温度および鋼材範囲についてなど、種々の問題点があげられた。
3. 圧力容器用鋼板使用状況アンケートを以下のユーザーおよびファブリケーターに行なうこととした。

日機連、石播、三菱重工、千代田化工、石油学会、石井鉄工、溶接容器工業会

機械試験方法 JIS 原案作成分科会

第1回分科会 開催日：9月2日。出席者：吉沢主査他23名。
会議事項

1. 引張試験関係から先に改訂原案を作成することにし、衝撃試験関係はその後に着手することにした。
2. 現行の引張試験関係 JIS に関する意見が各委員より述べられ、これら意見に対するアンケートを次回までにまとめ、これを中心にして改訂を進めることとした。

低Mn鋼原案分科会

第1回分科会 開催日：8月22日。出席者：長谷川主査他18名。
会議事項

1. 委員自己紹介
2. 主査挨拶
3. 協会吉田部長、工技院水野技官より低Mn鋼原案作成のいきさつについて報告があつた。
4. 経過説明

藤田幹事より現在までの動きについてメーカー側のアンケートのとりまとめ結果の報告があり各項目についてユーザーの意見を求めた。このうち鋼程の選定、化学成分の設定、などについては問題点が多いのでさらにアンケートを求め次回にでも決めることになった。

5. 今後の方針

化学成分でまとめていく案と、機械的性質でまとめていく2つの案がありアンケートで次回に決めたいと考えている。

鉄鋼標準試料委員会

第18回委員会 開催日：9月14日。出席者：池上委員長他24名。
会議事項

1. 日本鉄鋼標準試料の本年8月末在庫量を説明し、在庫量が200本を越える試料は新鉄鋼標準試料に切替えるため新JIS法によつて分析をやり直し、新型試料ピンに入替えし、一部は発売、残りは成績表作成中であると述べた。
2. 新鉄鋼標準試料製造進捗状況について報告があつた。
3. 品切れ近くになつた試料の製造計画については、時期を失なわないよう在京委員会で仮決定して実施し、本委員会で確認することを決めた。
4. 鉄鉍石標準試料の偏析や経年変化や輸送中の変質についてISO鉄鉍石委員会で話題になつた(資料35)ので、その調査を製造担当の日本鋼管に一任することになつた。
5. 昭和42年度に工技院からの調査に対し、鉄鋼標準試料特に機器分析用標準試料の偏析調査試験研究(資料34)に対し鉍工業技術試験研究補助金(300万円)を申請する予定である旨回答したことを報告した。

6. 粉末冶金による鋼中酸素分析用標準試料の共同実験について住友金属工業から謝意の表明があり、同社の分析結果と各社における分析結果の平均値がほぼ一致するので、製造上の問題はないと判断し工業的な規模で製造できるかどうか調査中であると報告した。

を窒化物を含め各社案を提出検討を行なった。②各社インゴット介在物分類調査を八幡案に従って行なう。ただし V' VI VII型, VIIIと型VII'型を各々一つの型とする。大きさ 100 μ 以上のものについてどのタイプかを附記する。

3. 次回では E.P.M.A. の結果報告。介在物分類調査報告を検討する予定で、2回位の小委員会でまとめる予定である。

鉄鋼基礎共同研究会

リムド鋼小委員会

第3回小委員会 開催日：8月9日。出席者：荒木部会長他14名。

会議事項

1. 各社介在物(分類および E.P.M.A.) 測定結果の発表および検討。
各社より資料の発表、検討が行なわれ、一部の社から鋼塊介在物の分類について新しい分類型も提出された。また荒木部会長から介在物の新しい表示法が提案された。
2. 来年度のテーマについて事務局より来年度鉦工業補助金の申請枠を採つたので、来年度の研究を考えてほしいという報告に対し研究テーマの決定、運営方針についてもつとすつきりした決定を望むとの意見があつた。
3. 次回までの Pending 事項として鋼塊介在物分類案の再検討、介在物表示案(部会表提案)の検討。各社の特異点の検討、凝固および介在物発生メカニズムの検討を各社で行なつてくることに決定。

第4回小委員会 開催日：9月8日。出席者：荒木部会長他13名。

会議事項

1. 介在物分析法について沃素アルコール法によるバラッキは鋼塊固有のもので分析部会の再度のチェック要求は意味がないなどの検討も行なわれたが、まだ分析方法による差異がすつきりしていないとの分析部会の意向を尊重することにした。
2. 鋼塊介在物分類について①介在物命名法、分類法

機械用鉄鋼規格調査委員会

第5回委員会 開催日：8月29日。出席者：作井委員長他14名。

会議事項

前回提出された「報告書内容」の目次に従つて、4提出資料を検討した。その結果

- (1) 調査業種の現状については今回提出された資料をもとに、事務局でまとめる。
- (2) 自動車、建設鉦山、鉄道車輛各業界別のアンケート結果および訪問調査結果の分析は、普通鋼は今回八幡から提出された資料を参考にし特殊鋼について大同から資料を提出願ひ、各工業会でまとめる。
- (3) 規格上の問題点、希望規格は工技院がとりまとめる。

その他個々の検討がなされ、各工業界は原稿を9月12日までに提出することになった。

第6回委員会 開催日：9月17日。出席者：作井委員長他14名。

会議事項

報告書作成のため自動車、建設鉦山、鉄道車輛各業界別に書いていただいたアンケート調査結果および訪問調査に基づいた規格別鋼材使用割合、JIS 規格の問題点の検討が行なわれた。

報告書原稿はこれで出そろつた。編集は工技院および事務局で行なうことになった。

新入会員氏名

(昭和41年7月1日～8月31日)

| 維持会員 | | 正会員 | | 新入会員 | |
|---------|------------|-------|------------|----------|--------------|
| 旭硝子株式会社 | 1口 | 新川 耕治 | 川崎製鉄(株)千葉 | 杉田 賢治 | 〃 〃 |
| 平谷 達雄 | 〃 〃 | 平谷 達雄 | 〃 〃 | 萩元 公 | 〃 〃 |
| 藤原 隆義 | 〃 〃 | 藤原 隆義 | 〃 〃 | 能勢 二郎 | 日本鋼管(株)技研 |
| 吉田 成 | 〃 〃 | 吉田 成 | 〃 〃 | 中野皓一郎 | 〃 鶴見 |
| 間口 竜郎 | 〃 西宮 | 間口 竜郎 | 〃 西宮 | 松田 一敏 | 日本鋼管(株)鶴見 |
| 静 弘 | 〃 〃 | 静 弘 | 〃 〃 | 玉木 保次 | 〃 川崎 |
| 秋田 光政 | 特殊製鋼(株) | 秋田 光政 | 特殊製鋼(株) | 河野 親 | 〃 水江 |
| 熊坂雄一郎 | 〃 技研 | 熊坂雄一郎 | 〃 技研 | 喜多村 実(株) | 神戸製鋼所神戸 |
| 下尾 聡夫 | 〃 〃 | 下尾 聡夫 | 〃 〃 | 牛堂 勝弘 | 〃 尼崎 |
| 小山 孝 | 日本ステンレス(株) | 小山 孝 | 日本ステンレス(株) | 森岡 猛春 | 〃 〃 |
| | 直江津 | 森岡 猛春 | 〃 〃 | 藤井 功 | 富士製鉄(株)本社 |
| | | 藤井 功 | 〃 〃 | 山崎 照治 | 〃 釜石 |
| | | 山崎 照治 | 〃 〃 | 浦山 一男 | 東京鉄鋼(株) |
| | | 浦山 一男 | 〃 〃 | 君島 庄蔵 | 〃 |
| | | 君島 庄蔵 | 〃 〃 | 歌川 寛 | 東京都立工業奨励館 |
| | | | | 大友 清光 | 〃 |
| | | | | 藤川 保 | 日新製鋼(株)周南 |
| | | | | 山下 克正 | 〃 尼崎 |
| | | | | 中村 勝 | 住友金属工業(株)和歌山 |
| | | | | 不破 年男 | 大同製鋼(株)知多 |
| | | | | 中村 政允 | 日本冶金工業(株)大江山 |
| | | | | 諏訪 博俊 | 北海道工業(株)技術部 |
| | | | | 高橋 加造 | 三栄鉄工(株) |
| | | | | 松川 安一 | 新技術開発事業団 |
| | | | | 青井 孝夫 | 昭和電工(株) |
| | | | | 渡辺十四雄 | 北日本特殊(株) |

| | | | | | |
|-------|------------------|-------|---------|-------------------|----------------|
| 島田 正治 | 大谷重工業(株)羽田 | 石尾 寿万 | 富山大学工学部 | 平井 喜信 | 富山大学工学部 |
| 多田 宏昭 | 日本砂鉄鋼業(株) | 今村 徹 | 〃 | 古木 章夫 | 〃 |
| 栢野 康彦 | 岡山県工業試験場 | 小沢 雅昭 | 〃 | 余川 昭吉 | 〃 |
| 浜崎 武夫 | 東京白煉瓦(株)千坂 | 岡本 俊樹 | 〃 | 吉田 英雄 | 大阪大学大学院工学部 |
| 塚田 要 | 王子製鉄(株) | 桶家 徹 | 〃 | 鷹野 雅志 | 〃 |
| 堀江 由郎 | 日立製作所田浦 | 開発 稔 | 〃 | 高橋 護 | 北海道大学工学部 |
| 広田才治郎 | トピー工業(株)豊橋 | 小松 弘昌 | 〃 | 橋本 保 | 九州工業大学工学部 |
| 渋谷 章正 | 朝日製鉄(株) | 佐伯 雄近 | 〃 | 外国会員 | |
| 阿部 有道 | 東北特殊鋼(株) | 斉藤 保彦 | 〃 | Lauro Cesar de | (Brazil) |
| 篠谷 寿 | 大阪府立工業高等専門 学校 | 嶋谷 彰 | 〃 | Abreu | |
| 学生会員 | | 津崎 俊吾 | 〃 | John Yates | (England) |
| 浅村 英泰 | 富山大学工学部 | 西川 年夫 | 〃 | Lancaster | |
| 新井 友吉 | 〃 | 幅 慎一郎 | 〃 | James C. Seastone | (U.S.A.) |
| | | 早瀬 英男 | 〃 | W.B. Ballantyne | (South Africa) |

学協会記事

第4回理工学における同位元素研究発表会

— 論文募集 —

共 催 日本放射性同位元素協会，日本鉄鋼協会ほか
41学協会

会 期 昭和42年4月18日(火)～20日(木)

会 場 東京大学

発表申込締切 昭和42年1月31日(火)

講演原稿締切 昭和42年2月28日(火)

内 容 それぞれの研究分野において，その専門的成果をうるにいたつた同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と，同位元素，放射線の利用の基礎となる研究論文とします。なおえられた専門的成果の報告もさしつかえありません。

研究の内容には，少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

申込先 日本放射性同位元素協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会
(東京都文京区本駒込2丁目28番45号理研内)

Tel 東京 946-7111

第7回真空に関する連合講演会案内

主催 真空協会，協賛 日本鉄鋼協会ほか8学協会

期 日 昭和41年11月14日(月)～16日(水)

会 場 京都会館会議室(京都市左京区岡崎)

第7回(1967)宇宙技術および

科学国際シンポジウム開催案内

Seventh International Symposium on Space Technology and Science, Tokyo, 1967

第7回「宇宙技術および科学国際シンポジウム」が下記により開催されますので，研究論文をご発表下さるようご案内いたします。

会 期 昭和42年5月15日(月)～5月20日(土)

会 場 日本都市センター(東京都千代田区平河町)

論文締切日 昭和42年2月1日

(発表は英語でお願いいたします)

申込先 東京都目黒区駒場町856番地

東京大学宇宙航空研究所 野村民地